

## 7. 令和7年度 学校運営評価結果

### 令和7年度 自己点検・自己評価結果

1)実施時期： 令和8年2月～3月

2)対象者： 教職員13名

3)評価基準： 3 当てはまる 2 やや当てはまる 1 当てはまらない

4) 結果 (3点満点)

前年度と比較して評価が上がった  
項目は以下の3項目である。

II教育課程・教育活動

IV管理運営・財政

VII広報

評価項目	評価
I 教育理念・教育目的	2.92
II 教育課程・教育活動	2.86
III 入学・卒業対策	2.73
IV 管理運営・財政	2.91
V 施設設備	2.86
VI 教職員の育成	2.74
VII 広報	2.96
VIII 地域との連携	2.23

I 教育理念・教育目的	JA福島厚生連の理念に基づき、地域に貢献する人材育成を目指す内容になっている。今後も本校の特徴を踏まえた教育理念、教育目標について日頃から学生たちへの意識づけを行っていく。
II 教育課程・教育活動	前年度に実施した新カリキュラムの評価結果を踏まえ、授業構築に取り組んでいる。また、講義や実習において講師や教員間の情報共有を図っている。学習支援担当別に学生個々の指導を実施することで、学力の向上につながっている。学生への個別支援として合理的配慮の提供に取り組んでいる。
III 入学・卒業対策	入学生は、前年度に引き続き定員の7割であった。18歳人口の減少や医療従事者の職種の多様化等により、今後も学生確保が困難な状況が予測されるため、学生確保対策としてインスタグラムによる情報発信を開始した。国家試験対策では、個別指導や教職員による直前ゼミナールを実施し学生の学力向上に努めた。卒業生に対する支援としてカムバックデーや母体病院との新人看護職員支援を実施し離職防止に努めた。今後も継続していく。
IV 管理運営・財政	会議や教員の研修、教科外活動など、予算計画、年間計画に沿って運営することができた。一人の教員がもつ業務が多いため、引き続き業務の効率化及び業務整理に取り組んでいく。
V 施設設備	整備が必要な箇所があるが、随時施設設備担当者および業者と対応している。
VI 教職員の育成	教員の看護実践力向上を目的とした現場研修や専任教員ラダーに基づいた授業参観は、年度途中の担当講義等の変更により計画通りには実施できなかったが、公開授業は予定通り実施できた。研究活動については、学会において2題発表し、次年度の発表に向けて複数の教員が取り組んでいる。専任教員確保対策としてインターンシップを導入した。今後、計画的な教員育成に向けた体制作りが課題である。
VII 広報	ホームページの更新や学院だよりの発行、進路説明会は、計画に沿って実施した。今年度、インスタグラムを開始し情報発信に努めた。次年度も継続して実施する。また、将来の看護職確保対策及び地域住民に本校の理解を得るために開催している小学生対象のKidsNurseは今後も継続して実施するとともに、対象を検討する。
VIII 地域との連携	保育園や企業の研修会に教員を講師として派遣した。昨年度から実施している地域の小学生を対象とした看護師の仕事体験の他、前年度に引き続き小学校において開催された仕事体験に出展した。また、今年度初めて県中地区の中学校での出前講座を実施した。学生は、JA祭りや白河関祭りなど地域の行事に参加し、ボランティア活動も行った。国際交流として、海外からの留学生の受け入れ体制は整っていない。国際的視野を広める授業については、海外での活動の経験がある看護師による授業を設け、実際の映像や体験談を聴くことで国際看護、災害看護に対する関心を高める機会としている。